

◇学力研最新情報 岸本ひとみ

●冬のフォーラムへどうぞ!!

12月23日(祝)の、冬の大阪フォーラム申込受け付けが進んでいます。今年の記念講演者は、京女式ノートの著者吉永幸司さんです。講演のお話もとてもおもしろくて、国語のみならず、授業を通して人間的に成長していく、高学年の女子の姿を語って下さった日は、時間がたつのを忘れてしまったほどでした。学力研の「学力づくり&授業づくりで、学級づくり」という考え方も一致する部分が多く、うんうんと何度もうなづきながら聞きました。

私が楽しみにしているのは、吉永さんと久保さんの対談です。お互いに共感しつつ、国語指導のエッセンスが出てくると期待しています。

分科会も、できるだけ国語でという組み立てです。今から、終業式の翌日、12月23日(祝)に予定を入れておいて下さい。

◇常任委員長 図書 啓展

●言いたいことが言えないのは?

先日、先輩と久しぶりにお会いして、素敵な話を聞きました。

・言いたいことが言えない人は、言いたいことを「言わない」と判断・選択したと読み替えてみる。

・なぜ言わないのか、理由は、他人の反応を恐れるからなど、恐れ不安があることを認めるべし。

・壁を乗り越えるには安心感が必要。言う側も緊張せず、受ける側も警戒心をもたないこと。

・必要以上に緊張しないために、ものを尋ねることから始める。その場で始め、後回しにしない。

○確認のための簡単な質問でいいこれで、「あの人は質問する人だ」という認定をとればしめたもの。

○現場ではあれこれ考えず、直観に頼る。考えるのは時間がある時に。

○他人がどう思うかは、自分の影響力の範囲外。受け取り方は相手に任せるしかない。これで少し言いやすくなりそう。

◇組織局だより 岡本 美穂

●この子どもも伸ばす

学力研の凄みは、「シンブルさ」と「子どもの姿という事実」だと感じた。「実践を重ねると主張はシンブルになる」という言葉を聞いたことがある。しかし、シンブルさを見指すのではなく、実践を重ねることが結果的にシンブルさにつながるのだとその方は主張されていた。

この言葉は、北フェスとの合同講座の後に、北フェスの有望な若手教師が振り返りを書いていた中であつた言葉です。私たちは同じ組織の中にいるとすべてが当たり前となり、すべてのことに疑問を持たなくなってしまうものです。それは職員室でも同じことです。

だからこそ、研修会や講座を通して様々な価値観に触れることを大切にしたいと思っています。その根底には、「この子どもも伸ばす」という確固たる願いがあるからです。

まだまだ講座もたくさん企画されています。一つでも多く参加して頂き、目の前にいる子どもたちのことを思ってください。

◇千人プロジェクトだより 岡篤

●分野別講座検討中

十月の常任委員会で、来年度全国フォーラム分野別分科会が議題にのびました。

一日目が記念講演と分野別分科会、二日目が学年別分科会という大きな枠組みは長い間続いており、来年度も続けていく方向です。

一日目については、以前は、記念講演が午後で分科会が午前中に一コマでした。現在は、午前中が記念講演などの全体会、午後から分野別分科会二コマです。この形になったのは、二〇一三年度から、つまり、今年で四回目ということになります。この変更に関しては、ぜひぶん議論をしたことを覚えていきます。

来年度は、分野別分科会のコマ数は現在と同じで、テーマや内容に関してはより、参加者のニーズに合ったものに、変えていこうということを確認しました。

ぜひ、設定してほしい分科会テーマや内容についてお知らせ下さい。岡篤(ttushioaka@gmail.com)

まで